

令和3年度 事業報告書

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

特定非営利活動法人ま・わ・た

1 事業の成果

昨年度同様、指定管理者制度に基づく「真岡市市民活動推進センターの管理運営」を団体運営の中核に据え、「民間支援組織として、営利を目的としない社会に貢献する活動を行っている個人や団体に対して、その活動や支援を行い、市民の自主的な活動による豊かな市民社会の発展に寄与することを目的とする」という設立目的のもと、事業を展開した。

本年度は本格的にフードバンク事業を進めてきた。また「特定非営利活動法人手仕事工房そら」より「そらまめ食堂」の事業を継承し、同作業所の法人化に向かう支援をスタートした。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
①市民活動に関する情報の収集と提供に関わる事業	A.各種イベントにおける広報	実施なし	実施なし	実施なし	実施なし	-
	(D.に内包)	-	-	-	-	-
②市民活動に関する相談、活動促進のための調整に関わる事業	(B.に内包)	-	-	-	-	-
	(D.に内包)	-	-	-	-	-
③市民活動における人材育成に関わる事業	(B.に内包)	-	-	-	-	-
	(C.に内包)	-	-	-	-	-
	(D.に内包)	-	-	-	-	-
④市民活動における多様な主体間の交流・連携の促進及び支援に関わる事業	B.講師派遣事業	実施なし	実施なし	実施なし	実施なし	0
	C.市民活動団体との共催事業	通年	真岡市内 栃木県内	役員 1名 会員 2名	一般市民、市民活動団体等 NPO 法人等、 一般市民等	0 927
	(D.に内包)	-	-	-	-	-
⑤市民活動に関する調査研究及び政策提言に関わる事業	(D.に内包)	-	-	-	-	-

事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
⑥市民活動の拠点に関する施設管理運営事業	D.真岡市市民活動推進センターの管理運営	通年	市民活動推進センター	職員 5名	一般市民、登録団体・個人ほか	16,279
⑦高齢者・障がい児者・子どもの福祉向上に関する事業	(C.に内包)	-	-	-	-	-
	E.フードバンクに関する事業	通年	真岡市内	会員 6名	一般市民	115
	(F.に内包)	-	-	-	-	-
⑧まち・むら活性化に関する事業	実施なし	実施なし	実施なし	実施なし	実施なし	-
⑨文化・芸術・スポーツの振興に関する事業	実施なし	実施なし	実施なし	実施なし	実施なし	-
⑩自然環境への理解及び環境保護の意識を高める事業	実施なし	実施なし	実施なし	実施なし	実施なし	-
⑪災害発生時の救援及び被災地域の復興に資する事業	(A.に内包)	-	-	-	-	-
	(D.に内包)	-	-	-	-	-
⑫国際協力、国際交流事業	(E.に内包)	-	-	-	-	-
⑬男女がともに尊重し合う社会づくりに関する事業	実施なし	実施なし	実施なし	実施なし	実施なし	-
⑭地域社会における学びの場づくりに関する事業	(D.に内包)	-	-	-	-	-
⑮障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障害福祉サービスならびに一般相談支援事業	F.福祉事業所運営事業	通年	真岡市内	職員 9名	障がい児者、一般市民	24,730
⑯その他この法人の目的を達成するために必要な事業	(A.に内包)	-	-	-	-	-

A.～E.については、次ページ以降で報告するものとする。

- A. 各種イベントにおける広報
- B. 講師派遣事業
- C. 市民活動団体との連携・共催事業
- D. 真岡市市民活動推進センターの管理運営
- E. フードバンクに関する事業
- F. 福祉事業所運営事業

3 事業の詳細

A. 各種イベントにおける広報

本年度は新型コロナウイルスの影響により、各種イベントが中止となったため、本活動は実施されなかった。

B. 講師派遣事業

地域からの要請などにより、当団体役職員を講師として講座を開催し、市民活動を理解・促進するための一助とすることを目的に実施しているが、本年度は要請等がなかったため実施されなかった。

C. 市民活動団体との共催事業

市民に必要とされる団体を目指して、真岡市をはじめとした芳賀地域で活動している市民活動団体が実施する多様な事業に関わることで、多くの市民が市民活動の魅力に気づき、参加を促す契機とする。

今年度も、これまで同様、地域の市民活動団体が実施する事業に対して連携を図りながら協力体制を築いてきた。さらに県内の中間支援団体等と連携し、「事業継続計画（BCP）」に係る NPO 法人の意識調査などを、栃木県共同募金会の実施する「令和 3 年度 赤い羽根 新型コロナ感染下の福祉活動応援全国キャンペーン【つなげる助成】」より助成を受け実施することができた。

事業協力 実施概要

日付	事業名称	実施内容	協力団体
通年	真岡まちづくりプロジェクト～まちをつくろう～	活動へのボランティア参加等	真岡市、各種参加団体・個人

共催事業 実施概要

日付	事業名称	実施内容	協力団体
7月～12月	市民活動団体向け「危機を乗り越え、活動を未来につなげるシナリオ」としての BCP 策定に向けたツール（様式例）の開発	・ NPO 法人に向けた BCP に係るアンケート調査 ・ BCP への理解を深め、ツール開発に向けた話し合いの実施	特定非営利活動法人ハイジ、認定特定非営利活動法人宇都宮まちづくり市民工房、国立大学法人宇都宮大学 助成団体：栃木県共同募金会

D. 真岡市市民活動推進センターの管理運営

真岡市市民活動推進センターの指定管理期間 3 期目における事業年度 3 年目である。新型コロナウイルス感染症の影響により、利用制限等を行いながらの運営となった。以下に事業の結果を示す。

令和3年度 真岡市市民活動推進センター 指定管理業務 概要

<p>1. センターの利用等に関すること</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・団体・個人登録の状況は、それぞれ 216 団体（前年比+1）、105 名（前年比+1）であった。 ・来館者数ならびに施設や機材、ミーティングルームの貸し出しについて、コロナ禍の影響はあったものの令和2年度よりは増加傾向にあった。 ・活動展示の場である「こらぼひろば」については、ほぼ毎月実施することができた。 ・ロッカー・メールボックスについては概ね利用いただいた。 ・年度末には、利用者アンケートを実施した。本年は、定例の項目のほかセンター事業に関する項目も作り、次年度の事業への意見をいただいた。
<p>2. 情報収集・提供</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌「コラボ！」を、例年通り発行した。（1,000部） ・利用者協議会から意見を集めるため、役員会を実施した（5回）。また総会についてはコロナ禍の現状を踏まえ、書面決議とした。 ・利用者アンケートを実施し、施設等の満足度の他、センターの一部事業の内容や開催内容についてお聞きした。回答率は団体 32.8%（67/204）、個人 16.3%（17/104）だった。 ・関係機関との交流として、外部の研修や会議等への出席や事業への協力、取材などを行った。
<p>3. 相談等への対応</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・相談対応は 41 件で、多くは登録団体からの相談（50.0%）で、内容は「団体・人・活動」に関する相談が最も多かった（38.6%）。
<p>4. 研修会、講座の実施</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・一般市民向け事業としては、「コラボ茶話」（全 7 回）、「クリーンボランティア」（全 2 回）、「協働理解促進講座」（全 1 回）、「ボランティア体験事業」（全 5 回※一部次年度継続）を実施した。 ・センター利用者や市民活動団体に向けた事業では、「利用者支援事業」（1 回※コラボまつり中止に伴い実施）、「スキルアップ講座」（全 6 回）、「ボランティアコーディネート講座」（全 1 回）を実施した。 ・普及・研究事業では、広報誌の発行の他、ウェブサイトのリニューアル、「視察研修」（全 1 回）、「調査活動」（全 1 回※一部次年度継続）を実施した。 ・その他事業については、「共催講座」（全 1 回）、「ミーティングルーム大掃除」（全 1 回）を実施した。
<p>5. 交流促進のための事業</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・市民・企業・行政相互で実施できるような各事業でのコーディネートをめざすが、新型コロナウイルス感染拡大により、対応した活動ができずにいる。 ・利用者間の交流事業として、「こらぼ de ランチ」、「こらぼ～年会」、「ふれあいフェスティバルへの参加」が挙げられるが、どれも新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止となった。 ・登録団体や個人の活動紹介の場である「こらぼひろば」では 10 回の展示を実施した。

6. 関係機関との協力・連携に関すること

- ・本年より所管課が市民協働推進室に代わり、新たな体制となったが、これまで同様に連絡調整を行いながら、必要な事項についてはその都度協議を行い、対応した。
- ・二宮分館とも連絡交換をしながら、必要な事項についてはその都度協議を行い、対応した。また「真岡市二宮コミュニティセンター消防訓練」に参加し、コミュニティセンター各部署との有事の際の対応について共有した。
- ・その他、市役所各部署や市社会福祉協議会等の市内機関や県内の他の市民活動支援機関・行政等、県内外の市民活動団体とつながることで、情報の共有などを行うよう心掛けた。

7. センター内庶務

- ・書類や物品管理について、台帳や規約をもとに管理を進めた。
- ・会計業務、給与・労務管理の健全運営のため、システム、人員の調整に努めた。
- ・施設内の環境美化と新型コロナウイルス感染対応のため、毎日開館直後の掃除・消毒を実施した。
- ・勤務シフトの管理を行い、法令に準じた勤務体制の構築を目指した。

E. フードバンクに関する事業

本年も真岡市内でのフードバンク活動の促進のため、NPO 法人フードバンク うつのみやの協力を仰ぎながら活動を進めている。企業等との協働により、寄付ボックスの回収や入れ替えた防災備蓄品の提供などを受けた。また、個人や市民活動団体からの寄付も増やすことができた。

令和2年度に引き続き「フードバンクキャンペーン」を計2回実施し、地域で困窮している方々への支援と活動の広報を行った。特に2回目のキャンペーンは、益子町や益子町社会福祉協議会と共催・実施しており、真岡市外でのフードバンク活動への理解促進に協力することができた。また、初の試みとして支援が必要とされる方への食品提供を目指し「配布会」を開催し、真岡市等の協力により、困窮されている方々へお米を渡すことができた。令和2年度よりイオン株式会社の「幸せの黄色いレシートキャンペーン」に登録しており、贈呈いただいた昨年度分の寄付も活用させていただいている。

さらに協力いただいている NPO 法人フードバンク うつのみやの開催する「第9回チャリティウォーク」にも参画し、一緒に寄付を集めることができた。

フードバンク事業 実施概要

フードバンク運営	
日時	通年（毎月第2・第4の水曜日は寄付ボックスの回収）
提供元	市内某スーパーマーケット、真岡市、FB うつのみや、個人、団体等
提供先	個人、市内各種施設、キャンペーンおよび配布会
提供物	食料品（レトルト食品、カップ麺、調味料、米、野菜等）：2,700 kg

フードバンクキャンペーン 実施概要

開催日	会 場	配布数	備 考
①6/27	真岡駅東駐車場	112 名分	
②12/12	益子町福祉センター	63 名分	益子町、益子社協共催

配布会 実施概要

開催日	会 場	配布数	備 考
①3/26	真岡市役所	92 名分	お米配布会

チャリティウォーク 実施概要

開催日	開催地	実施内容	備 考
10/9	宇都宮（市街地⇄大谷）	チャリティウォークのボランティアスタッフとして参画	集まった寄付のうち 31,935 円を受け取る

F. 福祉事業所運営事業

真岡市田町にある「そらまめ食堂（現・多機能型事業所そらまめ）」は益子町の「NPO 法人手仕事工房そら」が運営する就業継続支援 B 型の従たる事業所であったが、「そらまめ食堂」の今後の事業拡大に伴い、事業所の所在地等で課題が生じ、事業分離することとなった。しかしながら、同事業所だけでは単独で運営するための基盤が弱く、急な展開であったため準備を行うこともできないことから、当法人で事業を継承することで同事業所の継続と組織基盤づくりの支援を行っている。現在、「多機能型事業所そらまめ」として、これまでの就業継続支援 B 型事業所「そらまめ食堂」と新たに生活介護「アトリエファーベ」の 2 本の柱で事業を進めている。

多機能型事業所そらまめ（就労継続支援 B 型・生活介護）令和 3 年度概要

1. 個別支援計画と計画相談
・新事業の展開に伴い改めて「個別支援計画」を立て直し、全職員が把握することによりきめ細かな支援を心掛けた。各利用者の相談支援専門員（生活全般の計画相談の担当者）と連携を密にし、一事業所だけで問題を抱え込まないような対応を心がけた。担当…サービス管理責任者・主任支援員
2. そらまめ食堂（就労継続支援 B 型）の支援
・食堂班と工房班に分かれ、両方でのバランスを取りながら、利用者が働きやすい環境づくりを目指した。またアトリエファーベでデザインされた作品を工房班で加工し、バックなどにして店頭で販売する流れを作った。 利用者数：13 名 担当…目標工賃達成支援員・作業指導員・生活支援員
3. アトリエファーベ（生活介護）の支援
・6 月の開所で新たに始まった「アトリエファーベ」は、アートでの自己表現の場として障害の重い方たちを中心とした生活支援の場である。各自のルーティンを作り、スケジュールを構造化することにより、当初落ち着かなかった利用者も徐々に慣れ

てきた。制作物の管理やデザイン使用料などの課題も浮き彫りになったため2年目につなげていきたい。

利用者数：5名 担当：生活支援員・看護師

4. 余暇活動・生活支援

- ・主にそらまめ食堂・工房（就労継続支援B型）の利用者からなる「自治会活動」では、担当を月ごとに変えるなど工夫をすることで、利用者の新たな一面を見ることができた。活動自体は、コロナ禍の影響もあったが、日帰り旅行なども実施することができた。担当：自治会担当職員
- ・利用者の創作の場である「そらまめ塾（毎週火曜日午後）」では、参加者が自発的に制作に取り組む姿勢を見せ、それが外部からの評価に結び付いた。また、手ぬぐい展やワークショップ、久下田駅のウインドアートなど精力的に活動を展開することができた。ビューイング展（栃木県障害者芸術祭）にて9名13点の作品が入選し展示された。（講師…黒田太郎氏）
- ・「利用者の健康・衛生」については、健康診断やコロナウイルスへの感染対策などを通して改めて健康について意識づけすることができた。（嘱託医…うりずん理事長高橋昭彦氏）担当：看護師
- ・「利用者のご家族との関わり」については、連絡帳を用いて家庭と事業所のやり取りを大切にした。
- ・「危機管理」については、それぞれの活動、設備等での事故・ヒヤリハット報告を徹底し、課題の抽出に努めた（令和3年度中のヒヤリハット28件）

5. 食堂運営

- ・食堂経営については、商工会主催事業への参加で新たな取り組みに挑戦した（もおかサンドイッチグランプリ）
- ・市役所販売については、緊急事態宣言により直接販売ができない期間もあったが、注文配達などにより売上を維持することができた。
- ・女子高販売については、やはりコロナ禍の影響で実施が難しく、年間を通して7回の販売となった。

6. 職員研修

- ・年間を通して9回の講座に参加し、職員が各々の技術向上に努めた。
- ・令和4年度に関しては職員ひとり一人が研修目標を立て、そらまめならではのキャリアパス要件としてスキルとサービスの向上を目指したい。

7. 地域活動・外部団体との協働

- ・図書館プロジェクトでは、そらまめとして新たに「白杖と車椅子体験」を実施し、真岡女子高JRC部の学生たちとともによいイベントとなった。
担当：2名（うち1名利用者）
- ・その他の外部団体との協働ではきょうされん、KTU（県内の10か所の事業所が集まり自主研修をする集まり）、真岡商工会などの団体とともに活動を行った。またこども食堂（まめっこ食堂）を夏に実施することができた。